

「特集：戦後日本社会のメディアと市民意識」に寄せて

慶應義塾大学法学部教授

同メディア・コミュニケーション研究所所員

大石 裕

慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所の研究プロジェクトの一つとして、「ジャーナリズムと権力」が進行中である。このプロジェクトは、主として戦後日本社会のジャーナリズムに関して調査研究を行ってきた。このプロジェクトを進めるにあたり、基礎作業として既存の調査研究を体系的に整理することに必要性が痛感された。

そこで本特集では、「戦後日本社会のメディアと市民意識」という枠内で、各執筆者が関心をもつ領域ごとに既存の調査研究のまとめを行った。その成果が、山腰、山口、津田の各氏が執筆した論文である。このうち、山腰論文と山口論文は、日本政治社会学会第1回大会（2004年3月11日）での研究発表をもとにしている。

大石論文と烏谷論文は、本研究所も参加しているCOE「多文化多世代交差世界の政治社会秩序形成 多文化世界における市民意識の動態」プロジェクトの中の、「市民意識メディア分析ユニット」の一環として実施した調査研究の成果の一部である。これら二つの論文は、戦後日本社会の重要な政治的争点であった「憲法改正」

「自衛隊の海外派兵」といった問題に関して、それらの大きな転機となった2003～2004年を中心に、新聞報道、世論動向の検討を行ったものである。

この特集を契機に今後、私たちは以下の二つの方向で研究を進め、その成果を公表していきたいと考えている。第一は、本特集の延長線上で、既存のより多くの調査研究、およびそこから引き出された知見を整理しながら、さらには様々なメディア論やコミュニケーション論を参照しながら、戦後日本社会のメディアと市民意識についての研究を行うことである。その際、メディアや市民意識を取り巻く社会状況に関する考察も行うことにしたい。

第二は、大石論文、烏谷論文で試みたような、戦後日本社会における重要なトピックを取り上げ、内容分析や言説分析を行いながら、本研究所のプロジェクトの一環として、ジャーナリズムと権力の問題についての検討を進めることである。

こうした研究計画の一つの段階として、本特集が編まれたことをご理解いただければ幸いである。